

社会人のための簿記

講義編



中小企業研修協会

はじめに

社会人のための「簿記」を学ぼう

「検定試験を受けるつもりはないが、簿記の基本は知っておきたい」

こんな思いを持っている人が多いようです。

実際、あらゆるビジネスの場面で、簿記は役立ちます。お金を管理する経理はもちろん、営業においても必須のビジネス知識です。営業では、お客さんと商談する際に、いくらで売り、いくら儲かるのかを把握しておく必要があります。簿記を学べば、こうした基本的な営業センスがしっかり身につきます。

さらに、会社の経営に参画するようになれば、簿記の知識がますます役立ちます。経営者は、経理や営業の動きを掌握し、経営判断を下すことになります。簿記の知識があれば、適切な経営判断に役立ちます。このように簿記を学ぶことで、ビジネスで活躍できる場面はどんどん広がっていきます。

すぐに役立つ実用的な簿記の本です

ところで「よし、簿記を学ぼう」と思って本を探すと、そこで多くの人が戸惑います。

簿記の本は、数多くあるものの、その多くは、旧態依然とした簿記検定の出題に沿った内容で、現実の実務では不用な知識が多く取り上げられているからです。そのため「これを勉強しても、実務にどう役立つのかわからない」と困惑してしまうのです。

たとえば、つぎのような点です。

【検定の簿記】

簿記のしくみである帳簿組織一すなわち、仕訳帳から総勘定元帳への転記の仕方にかかなりの紙面を費やし、試算表や精算表の作成をくわしく説明している。つまり、帳簿組織やその集計作業を中心に説明している。

【実務の簿記】

会計ソフトの普及により、仕訳を入力すれば一気に試算表まで作成されるので、帳簿組織やその集計作業をくわしく知る必要がない。実務では、その帳簿組織が何のデータを表すのかを知っていれば十分である。

私がかねてより、簿記の本のほとんどが検定試験の出題に沿ったものばかりであるのが不思議でした。なぜ、社会人のための実用的な簿記の本がないのかと。その大きな理由の一つは、おそらく、執筆者の多くが商業高校の先生や大学教授であることが一因と考えられます。つまり、彼らは実務経験がないために、実務者向けの簿記の本を書きたくても書けないのです。私はこの実情を正視し、すぐに役立つ実用的な簿記の本が必要である、と考えました。

なにも検定試験の出題に沿って学ぶことのみが簿記の勉強ではあ

りません。実際、簿記の資格がなくても会社の経理の仕事は十分できます。「検定試験を合格するための簿記」と「実務で役立つ簿記」は、基本的に違うからです。本書は、実務で役立つ社会人のための簿記の本です。



120分で学べる超効率的な簿記の本です

簿記を勉強する際に気になることの一つに「勉強時間」があるのではないのでしょうか。いくら簿記が重要だと言われても、多くの勉強時間が必要では、はじめの一步が踏み出せません。

そこで本講座の講義編では、最小限のエネルギーで最大限の効果を得るために、簿記の知識のうち実務で重要性の低いものはどんどん削り落とし、徹底的にスリム化しています。これにより、わずか120分で簿記の基本を学ぶことができます。

さらに簿記をマスターするうえで、重要な簿記の基本を繰り返し丁寧に説明しています。このため、一度読み終えたときには、すでに復習も終わっている構成になっています(したがって、2度読めば、じっくり4度読んだことになります)。丁寧な反復説明で、簿記の基本知識が定着できる超効率的なつくりです。講義編の学習効果は大きく、120分で簿記の基本は十分に習得できます。



経営分析の基本まで学べる

講義編では、決算書である貸借対照表たいしゃくたいしょうりょうや損益計算書そんえきけいさんしょをつかった経営分析の基本も紹介しています。ビジネスで、経営分析の基本ができることは、とても有益だからです。

これまで簿記の本で、経営分析まで取り扱った本はほとんどありません。おそらく、簿記検定では経営分析が出題されないためでしょう。講義編によって、経営分析の基本も学ぶことができます。



7つのステップで学ぶ

講義編は、7つの大きなステップで構成されています。

- Step 1 簿記は、ビジネスの一般常識？！
- Step 2 大きな会社は、借金も多い？！
- Step 3 売上げが大きい会社が、儲かっているわけではない？！
- Step 4 「仕訳」でわかる取引の「表と裏」「光と影」？！
- Step 5 意外に知られていない？！知ってトクする簿記のしくみ
- Step 6 儲かったのか、それとも赤字だったのか？！
- Step 7 会社の健康状態は、良いのか。それとも、悪いのか？！

それぞれステップごとに丁寧に説明するので、無理なくスムーズに学習を進めることができます。

本講義編によって、みなさんが、短時間で簿記の基本を習得され、有為な人材としてビジネス界でご活躍されることを心から願っております。

監修 伊達 敦
中小企業研修協会 編集部

Step1 簿記は、ビジネスの一般常識?!

簿記とは何か – ビジネスで役立つ一般常識です –

- 1 簿記で身につく、3つのこと
- 2 「勘定科目」とは何か
- 3 簿記の「3つの鉄則」とは何か
- 4 「簿記のながれ」をつかむ

Step2 大きな会社は、借金も多い?!

資産・負債・純資産とは何か – 貸借対照表を学ぶ –

- 1 会社の「財産」を知る
- 2 「資産」とは何か
- 3 「負債」とは何か
- 4 「純資産」とは何か
- 5 貸借対照表のまとめ

Step3 売上げが大きい会社が、儲かっているわけではない?!

収益・費用とは何か – 損益計算書を学ぶ –

- 1 会社の「営業成績」を知る
- 2 「収益」とは何か
- 3 「費用」とは何か
- 4 損益計算書のまとめ

Step4 「仕訳」でわかる取引の「表と裏」「光と影」?!

仕訳とは何か - 日々の取引を2つの視点で記録する -

- 1 「仕訳」とは何か
- 2 仕訳のルールを学ぶ
- 3 仕訳の3つのステップ
- 4 「資産」グループの仕訳
- 5 「負債」グループの仕訳
- 6 「純資産」グループの仕訳
- 7 「収益」グループの仕訳
- 8 「費用」グループの仕訳

ワンポイント 勘定科目を覚える裏ワザ

Step5 意外に知られていない?! 知ってトクする簿記のしくみ

帳簿組織とは何か - 仕訳をキレイに整理整頓する -

- 1 「帳簿組織」とは何か
- 2 「仕訳帳」とは何か
- 3 「総勘定元帳」とは何か

Step6 儲かったのか、それとも赤字だったのか?!

決算書とは何か - 簿記の最終的なゴールです -

- 1 決算とは何か。簿記の最終的なゴール
- 2 「試算表」とは何か。総勘定元帳をまとめた一覧表である
- 3 「決算整理」とは何か。年に1度の「大そうじ」
- 4 決算整理① 仕入商品の整理
- 5 決算整理② 貸倒引当金繰入
- 6 決算整理③ 減価償却
- 7 決算整理④ 費用と収益の繰り延べ
- 8 決算整理⑤ 費用と収益の見越し
- 9 決算整理後残高試算表。決算整理のあとで「残高試算表」をつくる

Step7 会社の健康状態は、良いのか。 それとも、悪いのか?!

経営分析とは何か - 決算書で、会社の財政状態と営業成績を知る -

- 1 「貸借対照表」とは何か
- 2 「貸借対照表」を分析する
- 3 「損益計算書」とは何か
- 4 「損益計算書」を分析する

付 録

仕訳チェック早見表。迷った時に使えるチェック表

Step 1



簿記は、 ビジネスの一般常識?!

ビジネスで、知っておくべき簿記とは何か。簿記がビジネスでどのように活かせるかを紹介します。簿記を学ぶうえで重要な「勘定科目」・「3つの鉄則」・「簿記のながれ」について説明します。

■■■■■「簿記は、ビジネスの一般常識?!」■■■■■

会社には、必ず簿記が存在します

わたしたちは、健康診断でレントゲン検査をすることがあります。レントゲン撮影によって、からだの内部をくわしく検診することができます。

からだのつくりは、大人も子供も基本的にみな同じです。

もし、仮にレントゲン検査で、会社の内部をくわしく検診することができれば「簿記」の存在が見えてきます。これは、上場会社も個人商店も同じです。

お金が動くところには「簿記」がある

簿記とは「帳簿記入」の略です。会社では、かならずお金が動きますから、日々の取引を帳簿に記入する技術が必要です。それが、簿記です。ビジネスあるところに簿記が存在します。つまり、簿記は、ビジネスの一般常識なのです。

Step 1 では、簿記を学ぶことで、何が身につくのか? 「勘定科目」とは何か? 簿記を学ぶうえでの「3つの鉄則」とは何か? を中心に学びます。

簿記で身につく、3つのこと

ビジネスで大切な3つのことが身につく



その1 ビジネスバランスが身につく

これから、みなさんは、簿記を学び知識を習得します。これは、簿記を学ぶという「原因」が、知識の習得という「結果」をもたらすことを意味します。

物事には、必ず「原因」と「結果」という因果関係のバランスがあります。これは、ビジネスにもあてはまります。つまり、ビジネスバランスです。

今、あなたの会社の金庫に100万円があるとします。

この100万円は、どのような原因で得たお金でしょうか？

モノやサービスを売った代金として、お客さんから得たお金でしょうか？ それとも、銀行から借りたお金でしょうか？

金庫に100万円ある「原因」と「結果」のビジネスバランスは何か？

簿記は、ビジネスの一つ一つの取引にある「原因」と「結果」を学んでいくものです。簿記を学ぶことで、ビジネスバランスが身につきます。



その2 コスト感覚が身につく

モノやサービスを売るには、さまざまなコストがかかります。コストとは、モノやサービスを売るためにかかる必要経費と考えてください。

たとえば、車の販売店を考えてみましょう。販売店は、車をメーカーから仕入れなければ、車を売ることができません。この車を仕入れる代金がコストです。

A社が1,000万円の売上げに950万円のコストをかければ、利益は50万円です。一方、B社は、100万円の売上げでもコストが20万円なら、利益は80万円になります。

【単位：万円】

会社名／項目	売上	仕入コスト	利益
A社	1,000	950	50
B社	100	20	80

このことから、必ずしも「売上げが大きければ、利益も大きくなる」とはいえません。

売上げが大きくても、利益が小さい会社があります。反対に売上げが小さくても、大きな利益が出ている会社もあります。会社の業績の良し悪しを判断するには、売上げだけでなく、利益も考えなければなりません。簿記を学ぶことで「いくら売上げで、どのくらいのコストがかかり、利益はいくらになる」というコスト感覚が身につきます。



その3 経営感覚が身につく

ビジネスにおいて、人は大きく2つの立場に分かれます。「経営者」と「働く人」です。

簿記は「経営者」側の視点で作られたものです。もっとも、わかりやすい例は、お給料に対する考え方です。世の多くの方は「働く人」の立場で、お給料を会社から「もらう」と考えます。しかし、簿記では、経営者の立場で、お給料を社員に「支払う」と考えます。つまり、経営者の視点に立っているのです。このため、簿記を学ぶことで、知らず知らずのうちに経営者としての資質、すなわち、経営感覚が身につくことになります。

「勘定科目」とは何か

簿記は「勘定科目」を覚えることから始まる



英単語と勘定科目

英語の勉強は「英単語」を覚えることから始まります。いくら主語や述語などの文法を覚えても、英単語そのものを知らなければ、英語をマスターすることはできません。はじめて、英語を勉強した頃を思い出してみてください。地道に英単語を一つひとつ覚えたはずです。

この英語の勉強方法は、簿記を学ぶうえで、参考になります。

簿記で、英単語に相当するのが「勘定科目」です。勘定科目とは「現金」や「借入金」のような「簿記の単語」のことです。簿記はこの「勘定科目」を覚えることから始まります。



5つのグループと勘定科目

勘定科目は、大きく5つのグループに分けられます。「資産」「負債」「純資産」「収益」「費用」の5つです。

このうち「資産」「負債」「純資産」の3つのグループは、貸借対照表の作成に必要な勘定科目です。貸借対照表とは、会社の「財産」がわかる資料です。

また「収益」「費用」の2つのグループは、損益計算書の作成に必要な勘定科目です。損益計算書とは、会社の「営業成績」がわかる資料です。

5つの勘定科目グループ
「資産」「負債」「純資産」「収益」「費用」

貸借対照表

資 産

負 債

純資産

損益計算書

収 益

費 用